

アジアの反帝民族解放闘争と団結し

三里塚侵略軍事空港を粉碎せよ

三里塚二期決戦に関する決議

二里塚闘争は、政府・公団が團結小屋と一坪共有地への強制代執行を宣誓し、一期工事をめぐる攻防は帝国主義国家権力と三里塚勢力との正面切った闘争史を画する決定的時期を迎えていた。

1 三里塚空港の「二期用地」は、七

一年の第一次・第二次強制執行阻止の闘いによって、空港公団から千葉県収用委員会に裁決申請が出されたまま、裁決手続きの開始決定もされず棚附になつて現在に至っている。

七七年、運輸省は一千百億円にのぼる一期予算を要求、一期分開港から一挙に二期工事を進めようとしたが、開港阻止決戦、とりわけ三・十六管制塔占拠闘争の勝利によってその自説見はふき飛んだ。これは、反対同盟農民と團結した全国の戦闘的労働者・人民が政治決起し、現地実力闘争部隊として自らを大衆的に組織し闘えば、敵の二期工完全開港の野望を粉碎できることを示した。

2 戰争遂に国家体制を急ぐ日帝は、その体制に不可欠な空港・制空機能を確保するため、暫定開港以降あいついで反対同盟と反対運動への攻撃を進めた。成田治安立法や空港警備隊による暴力的闘争圧殺と同階級部切崩し政策、そして農民の農業意欲を煽動した成田用水攻撃に象徴される慘案をはじめ、地縁・血縁を動員した反対同盟破壊攻撃。空港既成事実化、ジェット燃料輸送パイプライン完成以降の「二期着工」の打ち出し、一期準備予算の計上ほか、つねに三里塚・芝山連合空港反対同盟解体に照準を定めたものだった。

こうした同盟解体攻撃の恩骨頭が、當農と闘争の中軸にある青年行動隊に対するデッヂあげ・重刑判決を狙う東峰裁判だった。だが、これは失敗した。

3 政府・公団は、八六年十月、二

期工事ではない」と詭弁を弄しながら一工事を着工、八七年五月には自主耕作地破壊に乗り出した。それは、一坪共有地閉い込み、有刺鉄線による公団用地封鎖、防護フェンス内工事開始とエスカレートし、閉い込み区域は拡大した。そして、警備用駐車場を使って軍事的制圧地

域は拡大され、エプロン・ターミナルビル用地の埋立てに続いて木の根トンネルが着工された。

2 今年四月、政府・公団は「二期本格着手」を宣言し、C滑走路に続いて東峰・天神峯のB滑走路区域でも本格工事に着手した。そして、開港10周年をテコに公報・マスコミを総动员して「二期促進」の世論操作に乗り出し、「九〇」年度概成に全体制をかけてきた。

4 政府・公団の強権的着工攻撃は、だが二期工事の未賃用地によつて「穴空き事」になつていている。つながりでトンネルや穴の空いた滑走路は何の意味もない。事実、木の根大トンネルは両端の着工で足踏みし、大金網の埋立ては中断を余儀なくされている。こうして二期工事を進めようとしたが、開港阻止決戦、とりわけ三・十六管制塔占拠闘争の勝利によってその自説見はふき飛んで、反対同盟農民と團結した全國の戦闘的労働者・人民が政治決起し、現地実力闘争部隊として自らを大衆的に組織し闘えば、敵の二期工完全開港の野望を粉碎できることを示した。

5 東峰横掘の用地内反対同盟は、一二戸が構成して「農民の主体性」を突き出している。そして、用地内を支える反対同盟の団結は、昨年一・二月の八日間に着工攻撃は、一期工事進展の重圧と自耕新作地破壊・道路封鎖・重警備陣圧によって、敵の二期工完全開港の野望を粉碎できることを示した。

6 日帝・国蒙権力は、三里塚侵略軍事空港の完成へ、その暴力装置を前面に手を握り、「党の改造」をほかる道を第

一期予算を要求、一期分開港から一挙に二期工事を進めようとしたが、開港阻止決戦、とりわけ三・十六管制塔占拠闘争の勝利によってその自説見はふき飛んだ。これは、反対同盟農民と團結した全国の戦闘的労働者・人民が政治決起し、現地実力闘争部隊として自らを大衆的に組織し闘えば、敵の二期工完全開港の野望を粉碎できることを示した。

7 わが同盟の第二回大会実践は、そ

れに反対して「農民の主体性」を突き出している。そして、用地内を支える反対同盟の団結は、昨年一・二月の八日間に着工攻撃は、一期工事進展の重圧と自耕新作地破壊・道路封鎖・重警備陣圧によって、敵の二期工完全開港の野望を粉碎できることを示した。

8 わが同盟は、中央指導部内に発生した反対同盟の右翼日見主義が、東峰横掘の用地内反対同盟は、一二戸が構成して「農民の主体性」を突き出している。そして、用地内を支える反対同盟の団結は、昨年一・二月の八日間に着工攻撃は、一期工事進展の重圧と自耕新作地破壊・道路封鎖・重警備陣圧によって、敵の二期工完全開港の野望を粉碎できることを示した。

9 わが同盟の第四回大会は、一期決戦、わけても東峰團結小屋から始まる敵の共用地・團結小屋への強制収用攻撃と農團結・大衆的暴力闘争のストーカンを掲げ、日帝の戦争遂行国家体制づくりと対決、国家権力の三里塚闘争の方針を明確である。侵略軍事空港粉碎・労働者・人民・革命的労働者・大衆団体に対する共同戦争の方針を明確である。

10 わが同盟は、未だ小さい組織であるが、それは戦闘の規模や質を低めることはない。われわれは、第四回大会の名において、自立立ち、政府・

米帝一掃・プロレタリア独裁の旗の下、正規の攻開軍建設をめざすわが共産主義者同盟の、とりわけ第四回大会下実戦に待ったなしに間われている。

3 まず、セクト主義克服し、日帝打倒・

域が応じてもらえない。もはや強制収用し

か残されていない」という、公団の県收用委員会再開へ示威行動であり、収用

が応じてもらえない。それは、経済主義とテロリズムの連携をもつて、反対同盟が「強制話合い」と呼ぶ

が応じてもらえない。それは、経済主義とテロリズムの連携をもつて、



日雇全協第五回大会開かる 「連合」に打ち勝つ階級的労働運動の奔流を

七月十日、日雇全協第五回大会

が、東京・足立区産業振興館にて開かれた。この大会は昨年十一月に予定されていたが、金町一家が新拠点を設け武装襲撃を激化したため、これとの闘いを優先し延期されていたのだ。

午前の部は黙祷によって始まり、議長選出の後、三里塚反対同盟(熱田・北原両派)をはじめとした七つの戦線からの連帯アピールが代読された。知花昌一さんからは「たたかいが絶ければ続けてやつてきことへのあかしがおこられる。つづいての来賓として、三団体が特別発言を行なった。右翼・権力との闘いをしてきたのは、労働戦線を中心に九団体及び、日雇全協がつくりあげてきた階級的团结の成長をうかがわせた。さらに三団体が特別発言を行なったところである。

午後からは第一部に入り、今大会の最大の課題は、八三年以来、日雇金協が給付をあげて闘いぬいてきた対金町戦の、とりわけ六八年一月十三日以降の総括を式化し、勝利にむけた升進の道をきりひらくことであった。山谷では、金町のヤミ印紙支配を粉碎する闘争が、労働者と連帯して金町の前面を守り、実力闘争を堅持して金町を返り、実力闘争を堅持して金町を奪回した。山岡さんが、「金町を攻め、金町を守る」と、第三組合を揚げる金町の前進拠点建設により、闘いはより勝ちぬくことを通じて、自分をかれてやつてきことへのあかしがおこられる。つづいての来賓として、三団体が特別発言を行なったところである。

午後からは第二部に入り、今大会の会議案が提起される。今大会の最大の課題は、八三年以来、日雇金協が給付をあげて闘いぬいてきた対金町戦の、とりわけ六八年一月十三日以降の総括を式化し、勝利にむけた升進の道をきりひらくことであった。山谷では、金町のヤミ印紙支配を粉碎する闘争が、労働者と連帯して金町を守り、実力闘争を堅持して金町を奪回した。山岡さんは、「金町を攻め、金町を守る」と、第三組合を揚げる金町の前進拠点建設により、闘いはより勝ちぬくことを通じて、自分をかれてやつてきことへのあかしがおこられる。つづいての来賓として、三団体が特別発言を行なったところである。

午後からは第二部に入り、今大会の会議案が提起される。今大会の最大の課題は、八三年以来、日雇金協が給付をあげて闘いぬいてきた対金町戦の、とりわけ六八年一月十三日以降の総括を式化し、勝利にむけた升進の道をきりひらくことであった。山谷では、金町のヤミ印紙支配を粉碎する闘争が、労働者と連帯して金町を守り、実力闘争を堅持して金町を奪回した。山岡さんは、「金町を攻め、金町を守る」と、第三組合を揚げる金町の前進拠点建設により、闘いはより勝ちぬくことを通じて、自分をかれてやつてきことへのあかしがおこられる。つづいての来賓として、三団体が特別発言を行なったところである。

カラバオの会

集会大成功

排外主義と対決し

外国人労働者との戦闘的团结へ

秋期実行委結成集会へ

靖国・ソウル五輪・京都国体を撃て

8.15

秋期実行委結成集会へ

靖国・ソウル五輪・京都国体を撃て

・ナクザとの実力対決を軸に、共

通の敵への闘いをもつて連帯して

いこうとした。そして「活況」のウ

ラで日々強まる、高令・病弱者層

の切り捨て・暴力事件・災災もみ

(88年)消し事件の増大と日々闘いながら

職安を軸とした支配再編攻撃との

対決を強めていくこと、あらゆる

被差別大衆・労働者の共同闘争

会を積極的につくりあげていくこと

などが提起された。その後、多忙にもかかわらず

協す会場にかけつけられた解放同

全盟立委部長の鈴木さんが「集会

所裁判で、差別行政とそれを擁護

闘いをともにつくりあげていった

私たちは、寄せ場の闘い、「死」と

いかわり、差別支配を打ち破るの

条件違反や災災により小指を切

断しても一万円の涙金しか支払わ

ない日本の業者の実態を報告しな

いとした暮細資本がより安価な労

働力を求めている以上アジアから

離れて、この闘いの前進こそ

思は、部族として、寄せ場の闘い、「死」と

いかわり、差別支配を打ち破るの

条件違反や災災により小指を切

断しても一万円の涙金しか支払わ

ない日本の業者の実態を報告しな